

平成 23 年度 学部入学式告辞

まずは日本の歴史上未曾有の東日本大震災に触れなければなりません。死者・行方不明者 28,000 人以上、被害額 25 兆円とも言われる大災害になりました。東日本大震災による被災者の皆さまにお見舞い申し上げます。国の内外からの支援の輪が広がっており、香川大学においても教職員はもちろん学生諸君も義援金の募金活動に加わってくれております。また、先週、私は北京を訪問しておりましたが、その折に香川大学同窓会中国支部の卒業生諸君が日本円で 42 万円ほどの義援金を私に託してくれました。被災地においては災害からの一日も早い復興を願っておりますが、科学・技術のあり方や自然との共生について改めて考え直す必要があると感じております。また、現在の我われの繁栄はまさに永年にわたる日本人の努力と英知の成果であることを考えますと、東日本を復興させることは 21 世紀に生きる私たち日本人の責任であると考えております。

新入生諸君、入学おめでとう。構内の桜の満開にはまだ少し時間がかかりそうですが、新入生歓迎行事の間には満開になり、君たちの新しい門出を祝ってくれることでしょう。また、香川大学の教職員と在学生一同は君たち 1,317 名を心から歓迎いたします。

君たちは今日から香川大学生です。大学生としての自覚を持って行動してください。大学は、学問をする場であります。学問をする場は、本来自主性と自律性が尊重されるものであり、その意味からも大学は学生である君たちに自主性と自律性を求めます。香川大学には君たちの勉学や大学生活を支援するために 2000 名を超える教職員がおり、それに加えて支援するシステムや設備がたく

さんありますが、君たち自身が積極的に動かなければなりません。大学は君たちをおとなとして扱います。今までのように先生の指示や指導に従って動くのではなく、今日からは君たちも品位と良識を持ったおとなになってください。父母の方々にもお願いします。お子さんが品位と良識を持ったおとなになるための支援をお願いします。

大学で養う能力は高校までとはっきり違います。高校までは、まず問題がそこにあり、その問題を解く方法を学び、そのための訓練を重ねてきたはずで、そこには必ず正解や模範解答がありました。しかし、君たちに養ってほしい能力は、問題を解く能力だけではありません。これから君たちが接する課題には、答えがいくつもあってどれが正解かも分からない場合がしばしば起こってきます。私が君たちにもっとも養ってほしいと思っているのは、これから専門としようとする分野や今自分が置かれている環境、現在活動している周辺において、問題や課題を見つけ出す能力です。課題や問題を見つけ出す能力をそれぞれの専門知識と重ね合わせながら磨いてほしいのです。ある専門的領域における課題や問題を見つけ出したり、見つけた課題や問題を解く能力などを総合して創造的思考力と呼ぶことができますが、その創造的思考力を大学卒業までにぜひ養ってほしいのです。

経済はもちろん社会のグローバル化、インターネットに代表される高度情報化社会の到来が言われはじめてかなりの年数が経っています。近年の世界の動きは激しく、また常に日本はもちろん世界中を巻き込んだ形で動いています。1990年代、君たちにとっては歴史上のことかも知れませんが、60数年生きてきた私にとってはつい最近体験した事実ではありますが、それを見ても、東西ドイツの統一にはじまり、湾岸戦争、ソビエト連邦崩壊、EUの発足がありました。

2000年代に入ると、アメリカ同時多発テロからはじまり、イラク戦争、BRICsの台頭、リーマンショックによる世界同時不況、日本の人口減少などがありました。最近では、中国のGDPが日本を抜いて世界第2位になったことやエジプトに代表される中東の政情不安、さらには東日本大震災をあげることができます。

社会のグローバル化とインターネットの普及によって、変化のパワーと速度はかつての比ではないと言われており、20年先、30年先の社会の姿を予見するのは不可能に近いと思われます。今年に入ってからエジプトやリビアなどで起こった中東の政情不安を予見していた人はほとんどいなかったと言われていています。また、ここ20-30年間における日本国内の大手企業の盛衰などからしても明らかのように、組織に頼って社会人生活を送る時代はとっくの昔に終わっています。個人の能力が問われる時代がかなり以前から始まっています。そのことをしっかり胸にきざんでおいてください。

これからの社会では、自立したひとりの人間として、社会で力強く生きていくことが求められます。自立したひとりの人間として、社会で力強く生きていくためには、知識や思考力、創造力に代表される、いわゆる「知力」にくわえ、実践力や社会力が求められるはずであります。実践力や社会力には判断力、チャレンジ精神、コミュニケーション能力、協調性、国際性などが含まれます。香川大学での学士課程教育のなかには知力だけでなく、実践力や社会力を養うための多くのカリキュラムが用意されております。これらのカリキュラムを通して、また課外活動などを通して、知力だけでなく、実践力や社会力を養い、21世紀の社会を担う人材に育ってくれることを大いに期待しております。私たち、香川大学の教職員は全力で君たちを支援し、応援します。

社会のグローバル化とインターネットに代表される高度情報化については先にも触れました。ここにいる君たちは、インターネット社会に十分適応していると思います。しかし、このグローバル化が進んでいるにも拘らず、最近の新聞等でも取りあげられているように、若者の海外留学離れ、外国離れが問題になっております。ここにいる君たちの日常生活は日本だけで成り立っていないことは十分承知しているはずで

日本の食料自給率は 40%を切っており、先進主要国のなかでは飛びぬけて低いことはよく知られています。日本のエネルギー自給率は、原子力を含めても 20%しかなく、原子力を除くと 5%程度です。日本の衣料品の輸入浸透率は 9 割を超えるそうで、流通している衣料品のうち、日本製は 10 枚のうちの 1 枚以下に過ぎないこととなります。一方、日本は世界の半導体製造拠点であり、東日本大震災が世界の半導体を利用する商品の生産に大きな影響を与えています。アメリカ向けの自動車部品の生産が、この大震災でストップし、アメリカでの自動車生産にも打撃を与えています。このようなグローバル化の流れの反映として、最近の新聞によりますと、大学卒の新採用のうち、外国人採用枠を 30%にするという大手企業も出てきています。ある調査によれば、大手企業の 3 分の 1 ほどが外国人採用を増やしたいと考えています。

我々日本人の日常生活を取り巻くほとんどのものは、国境がなくなり、グローバル化しています。君たち若者には国際化した社会への対応が求められています。そのためには、世界の人々とコミュニケーションする能力と教養、知識が君たちにとって、きわめて重要な素養となります。そのための準備を明日からはじめてください。また、香川大学在籍中にできるだけ海外へ直接出向いてください。そして、外国の文化、習慣、技術を学び、日本と比較してみてください。日本では得ら

れない多くのものが得られ、君たちの将来にとって大きな財産になるはずです。

21 世紀の社会では、今までとまったく違う地殻変動のようなものが動いているように感じられます。地域社会はもとより、世界に向けた人材養成を担う香川大学として、グローバル化がますます進む社会の中核となって活躍できる教育をしっかりと行っていきたいと考えています。われわれ教職員は君たちを全力で支援します。君たちが自分自身で誇れるような大学生活を送り、本学での学生生活を通して、「21 世紀社会の中核を担える人材」になってくれることを期待しています。また、「21 世紀社会の中核を担える人材」に君たちが育ってくれることが東日本大震災の復興につながるものと確信しております。

平成 23 年 4 月 4 日

香川大学長 一井 眞比古